

セーフコミュニティいずみおおつ

みんなで作る
安全・安心なまち



第
8
回

第3回対策委員会を開催

データから 泉大津の課題を浮き彫りに

第3回分野別対策委員会
を開催

新年1回目となる第3回分野別対策委員会が1月に開催されました。

第3回は、19日に「交通安全」、「高齢者の安全」、「自殺予防」、「犯罪防止」、20日は「子どもの安全」、「災害安全」の2対策委員会ずつの合同開催となりました。

ワークショップ

「データから見る地域の課題」

前回に引き続き、日本セーフコミュニティ推進機構の白石陽子代表理事と今井久人事務局長の支援のもと、対策委員会ごとに2つのグループに分かれて、



グループごとに発表する様子

ワークショップを行いました。今回は、データから見る泉大津の課題について意見を出し合いました。

消防や警察などの関係行政機関データや市民アンケートの集計結果といった資料から、各対策委員会で関係すると思われる部分を参考に、課題についての情報を整理して、グループごとに発表を行いました。

見慣れない数字や傾向のデータを見ると、最初は戸惑うところも見られました。が、作業が進むにつれ、事故についての年齢層や時間に関する意見や、現状把握のために、あるとよいと思うデータについての意見も出されました。

ワークショップを通じて、事故やけがの状況を把握し、本市の課題の共有を図ることができ、有意義なものとなりました。

対策委員会の紹介

「子どもの安全対策委員会」

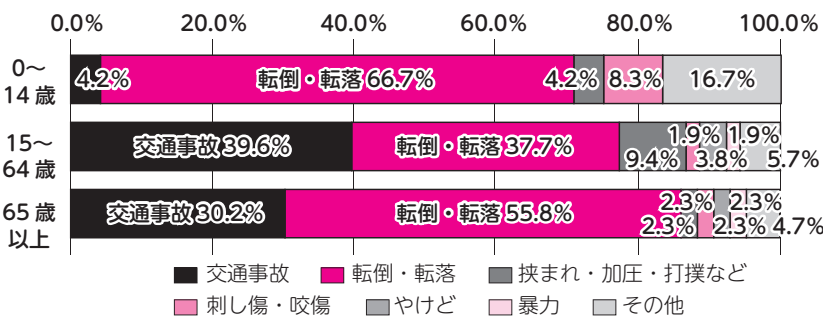
子どもの安全対策委員会は、PTA協議会や子ども会指導者協議会、教育支援センターなど16人の委員で構成しています。一般負傷による救急搬送が、

高齢層に次いで0〜14歳の年齢層で多いこと、過去1年間の事故・けがの状況において、0〜14歳の約7割が「転倒・転落」だけをしている（左図）ことなどから、子どもの事故・けがを予防することを目的として本委員会が設置されることとなりました。

問合 危機管理課（市役所4階）

過去1年間の事故・けがの状況

出典：泉大津市「セーフコミュニティ」アンケート集計結果報告書（平成26年9月）より作成



より安全な泉大津づくりにむけて議論を始めています

泉大津市の重点課題について分野横断的な協働によって取り組む対策委員会の活動が始まりました。

いろんな分野を代表する委員の皆さんが、日ごろ感じている危険や問題点、データから見える問題点などをもとにさまざまな視点からより安全な泉大津づくりにむけて議論を始めています。背景が異なる方が集まって議論しますから、時間がかかる場合もあります。でも、まずは、じっくりと話し合い、これからの方向性を共有されることを期待しています。

JISC 代表理事
白石陽子氏のコメント

